



挑戦を楽しむ幼稚園

北大にスマート農業拠点

挑戦を楽しむ幼稚園

札幌市の大倉山シャンツェにほど近い自然に囲まれた「宮の森幼稚園」。昨年から、私が理事長を務める学校法人田中学園が運営に携わっています。きっかけは、これまで長く園を運営してきた学校法人が、さまざまな理由から閉園を決めたことです。私はもともと幼少期の教育に高い関心をもっていました。地域の幼稚園が閉園することで、子育ての選択肢が狭まってしまうのではないかと。そう考えて、私に引き継がせてもらえないかと思い、当時の理事長に直談判しました。

しているのです。私はこの教育方針に共感しました。当時の理事長と私の教育観が一致し、運営を任せさせていただくことになったのです。園の運営を引き継いでからも、自然との触れ合いを大切にすることは変えずに、外国人講師からネイティブの英語を学ぶ機会などを取り入れました。さらに専門性の高い教育も独自に試みしています。他の園でも参考になると思うので、この場でいくつか紹介させてもらいます。まずは私が現役時代に行っていた視覚機能を鍛える「ビジョントレーニング」。物を立体的に見る力や、自分がイメージした体の動きをできるようにするトレーニングです。イメージ通りの動きを再現

賢介が行く

するのは、プロの選手でもとても難しいものです。効果は幅広く、学力の基礎となる高い集中力や優れた記憶力を養うことにつながると言われていました。もう一つは、ファイターズの元選手とファイターズチアダンズ講師によるオリジナルの幼児期向け運動教育を行っています。ファイターズがこれまで以上に北海道の子供たちに貢献できるように、いずれは他の園でも取り入れてもらえるよう願っています。私たちの園は「挑戦を楽しむ6歳」を掲げています。挑戦は楽しい、学んで楽しい、と感じてほしい。小学校に上がった時、学ぶことが面白くないと感じたら、勉強が苦痛になってしまいます。だからこそ学ぶことの楽しさを伝える教育



幼稚園運営を通じて自身の教育観について語る田中賢介氏

に力を入れています。まだまだ課題もありますが、園長はじめ先生や職員はいつも子供たちのために一生懸命頑張っています。幼児教育の現場に携わることで、本当に大変な仕事だと実感しました。どうすれば先生たちにとってやりがいのある職場になるのか、と日々考えています。明確な答えは出ていませんが、子

供たちに接する家族、そして先生たちが笑顔でいること。それが子供たちにとって最高の環境となり、やりがいのある職場につながっていくと思っています。最後に、なぜ私が幼少期の教育に関心を持ったのか。それは人生において一番大事な時期だと考えるからです。幼少期に大人がどのように接するかは、その子の人生に大きな影響を与えます。幼少期は自ら何かを選択することもできません。だからこそ、その間に、人生の土台をしっかりと築いてあげたいと思うのです。当然ながら、私の考える教育が全てではありません。人それぞれ教育観は異なります。押し付けたり合わせたりする必要はないと思います。大切なのは、どんな教育を子供たちに受けさせるのかという選択が、たくさんあることではないでしょうか。(元日本ハム選手・球団スペシャルアドバイザー 田中賢介)

(4) 第3882号 (昭和64年11月10日発行の種別改訂版)

64歳以下の新型コロナウイルスワクチン接種について

対象者数 (12歳以上)	スケジュール	方法
岩見沢市 3万7940人	国のワクチン供給が大幅に減るとの情報がありスケジュールが立てられない状況	集団接種と個別接種を併用し大規模接種も予定
美幌市 1万300人	未定。基礎疾患のある市民を優先接種することで調整中	集団接種と個別接種を併用
芦別市 5800人	医療機関と調整中	医療機関と調整中
赤平市 4481人	医療機関と調整中	医療機関と調整中
滝川市 2万2000人	未定。7月中には何らかの区分を付け一部の接種券の発送と予約受付を目指す	集団接種と個別接種を併用
砂川市 8700人	基礎疾患のある市民を最優先に7月10日以降に接種実施。次に優先順位の高い60～64歳は6月下旬に接種券を発送7月下旬に接種開始予定	集団接種
歌志内市 1244人	7月～8月末見込み。接種券の発送は6月下旬を予定	集団接種と個別接種を併用
奈井江町 2634人	開始時期は高齢者接種の進捗状況を見て判断。完了時期は9月末ごろ。接種券は7月上旬から年齢を区切って発送予定	集団接種と個別接種を併用
上砂川町 1222人	集団接種は7月17日、個別接種は8月から開始。全体で9月中旬には終了予定。接種券の発送は60～64歳が6月24日40～59歳が7月1日、12～39歳が同8日	集団接種と個別接種を併用
浦臼町 813人	接種開始は7月6日から。接種券発送は60～64歳が6月15日、50～59歳が同21日、19～49歳は未定。接種完了時期は未定	個別接種
新十津川町 3363人	接種のスケジュールは未定。接種券の発送は7月上旬予定	個別接種 [医療機関との協働で集団接種との併用も変わる可能性も]
雨竜町 1122人	接種開始は8月以降、7月上旬～中旬に接種券発送予定	主に集団接種

北大にスマート農業拠点



スマート農業教育研究センター(仮称)の完成イメージ。第一農場の隣に建設する

来年度開設 市民視察受け入れ

ロボットトラクターが目玉

北大は2022年度中に、札幌市北区の札幌キャンパスに「スマート農業教育研究センター(仮称)」を開校する。隣接する北大第一農場でロボットトラクターが稼働する様子を農業関係者や市民が視察できるようなするほか、民間企業が入居して共同研究を加速させる。アクセスのよい都心に実験農場を持つ強みを生かし、スマート農業の普及と技術革新を進める狙い。

同センターは鉄筋コンクリート一部鉄骨造り2階建て、延べ床面積3千平方メートル。キャンパス西側の第一農場の隣接地に建設する。建設事業費は約12億円。2階にロボットトラクターを遠隔制御する管制室を設ける。全面ガラス張りにしてトラクターの動きを自視とパソコン画面

の両方で確認できるようにし、視察の目玉にする。農業機械の開発実証や農機の実験データを取る解析室も整備する。また、講義室やトラクターの車庫、農産物の新品種開発の施設など分散していた機能を集約する。

北大などが岩見沢市で行っているロボットトラクターの実証実験は国内外から注目を集め、新型コロナウイルス禍前の19年度は104件もの視察があった。北大にも年間約30件、若手農家らが視察に訪れている。スマート農業は設備投資を伴うため慎重な農家もあり、同センターをショールームとして使うことで農家の疑問や意見を聞く。小学生ら市民の見学も受け入れたいと考えて、北大大学院農学研究院副院長の野口伸教授

は「農業が危険、汚い、きつい3K職場でなく、先端的かつこい産業だと知ってほしい」と意気込む。

民間企業との連携については、北大はこれまでも農機メーカーやNTTグループ、トヨタ自動車などと道内各地で実証実験を進めてきた。スマート農業は人工知能(AI)やIoT(モノのインターネット)に加え、農機の電動化や水素エネルギーの活用が課題となるなど多様化している。

こうした状況から、民間企業の人材が出張や常駐をしやすい札幌に新拠点を置くことで、異業種の知識や技術を組み合わせ、革新的な製品を生む「オープンイノベーション」を促す。民間に貸し出す実験室は3室あり、入居企業は未定だが、すでに複数の企業が進出する意向を示しているという。(生田憲)